

# 墜落米軍ヘリ対テロ訓練中

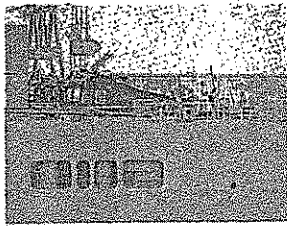
## 戦争法案を先取り

12日に沖縄本島東海岸のうるま市沖の海域に墜落した米陸軍ヘリMH60に乗り込んでいた陸上自衛隊員2人が防衛相直轄の中央即応集団所属の2等陸曹、同集団のなかでもテロリストの攻撃などに対応する特殊作戦部隊の隊員であることが分かりました。陸自の特殊部隊の隊員が米軍の特殊作戦の訓練に日常的に参加していた実態が今回の事故で浮き彫りになりました。

米陸軍参謀総長のオディエルノ大將は12日の記者会見で、陸軍ヘリの墜落事故が「いくつかの国との特殊作戦部隊の訓練中であつた」と認めました。

米陸軍参謀総長のオディエルノ大將は12日の記者会見で、陸軍特殊作戦ヘリのうちの1機であることが分かりました。米ワシントン州ルイス・マコード統合基地に駐屯する陸軍第160特殊作戦航空連隊第4大隊(通称「ナイト・ストーカーズ」)所属のMH60ブラックホークです。

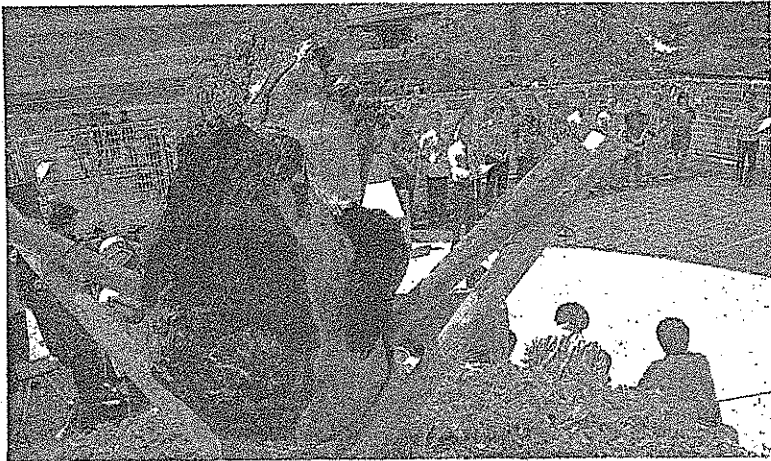
今回の事故で負傷した2人の陸自隊員はいずれも中央即応集団所属の2等陸曹。防衛省は、2人が米陸軍の訓練に「研修」として参加し、訓練を「見学」していたとしています。「研修」は09年から毎年実施され、今回は今年1日から15日までの予定でした。



墜落事故で破損したと思われる米陸軍上のヘリコプター(12日、沖縄本島沖(海上保安庁提供))

陸自中央即応集団は、その任務に「国際平和協力活動等」に対応することを掲げ、特殊作戦部隊はその中で

### 沖繩怒り広がる 沖国大事故11年「また墜落」



米軍ヘリ墜落事故11年。事故で焼けた焼け残ったヘリコプターを前に開かれた基地問題を語る集会(13日、沖縄県宜野湾市の沖繩国際大構内)

2004年に沖繩国際大構内(宜野湾市)に米軍ヘリが墜落した事件から11年の13日、墜落現場のモニメント前で大学主催の「普天間基地から沖繩を考える集い」が開かれ、大学の教職員や学生、OBらが参加しました。

大城保学長は、「われわれが不安に思い、恐れていた米軍ヘリ墜落事故がまた起こりました」と11日のうるま市伊計島沖の米軍ヘリ墜落事故にふれ、「オスプレイ機が騒音と低周波を発しながら普天間飛行場を基地にして県内上空を飛行

定したものの、ヘリはその訓練中に米軍輸送艦に墜落したとみられています。戦争法案の一部をなす自衛隊法改定では、日本人が海外でテロなどに巻き込まれた場合、自衛隊がその国まで出かけて「救出」活動ができるようになります。自衛隊の特殊作戦部隊の隊員による米軍特殊作戦部隊の訓練「見学」は、戦争法案による新たな任務に結びつくものといえます。

すれば大惨事になる墜落事件の恐れがいつもありまして」とのべました。また、大城学長は「県民の強い反対を受けてもお、辺野古の新基地を続けようとする日本政府に対する沖繩県民の不信は増幅するばかり」とのべ、普天間基地の即時閉鎖を要求しました。

集いでは産業情報学部企業システム学科3年の板倉敷彩さんが意見発表をしました。板倉敷彩さんは、11年前に沖国大で何があったかを詳しく紹介し、「日中の中に、墜落という事故がいつ起こるかわからないという不安を抱えながら、生活しているのが沖繩の実情です」とのべました。

11年前の墜落事件では、機体は炎上して大破。沖国大本館が使用不能になり、大学の機能がマヒする事態に陥りました。沖繩では、やまぬ米軍ヘリ墜落に原因究明と再発防止を要求、県民が抗議のデモをするなど怒りが広がっています。↓関連の面

8/14 市旗